2024 年度 学校法人 三幸学園 仙台ウェディング＆ブライダル専門学校
自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 ： 副校長 石川 孝紀
学校関係者評価報告責任者 ： 学校関係者評価委員会委員長 丹野浩幸

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング・ブライダル分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング・ブライダル分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNO1.のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- 地域イベントの参画（小学生に向けてのお仕事体験運営、宮城県ブライダル協議会主催のドレスショー等）をし、結果を残すことができた。一方でコロナ禍において人とのコミュニケーションや、他者との関わり方等において苦手意識を持っている学生が増えてきている印象もあるため、改めて学内の授業や行事を通して成長を目指すことが必要だと感じる。
- ウェディンプランナー科のインターンシップ（任意）選択率 51％となっており、任意選択ではあるが参加率が低くなっていることで実際の現場感がわからない学生が一定層いる。その為本物の結婚式を創りあげる行事については手を変え、方法を変え伝えているが現場感に関してしっかりと理解させることが課題感だと考える。

② 学校関係者評価委員会コメント

・インターンシップへの参加率が低い背景として、学生側に「現場に入ることへの怖さ」や「決まった枠に自分をはめられることへの抵抗感」があるのではないか。こうした心理的ハードルを考慮し、長期のインターンに限定せず、短期のインターンの導入を検討してみてはどうか。また、参加しなかった学生に対してその理由を直接ヒアリングし、支援の方向性や制度の見直しに活かしてみてはどうか。（田村委員）

・近年の若年層には、対面での会話や強い言葉を苦手とする傾向が見られ、仕事選びにおいても接客など対人業務を避け、AI 関連など直接的なコミュニケーションを必要としない職種を志向する傾向がある。外国人のように積極的にコミュニケーションを取ることができる人材との差が浮き彫りになる中で、段階的に「接客の場に慣れる」環境を整えることが、インターンシップの参加促進や社会人基礎力の育成につながるのではないか。（丹野委員）

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ブライダル業界とのつながりに関してはコロナ禍以降より連携し、業界にとってのニーズ把握、よりよい人材輩出等を強めることができたと感じる。保護者との連携については新入生保護者説明会を対面で実施し、教育内容についてご理解いただいた。しかし、入学後の保護者連携については課題感が大きくなかなか連携が取れている状態には至っていない。2024 年度については校内模擬挙式への参加案内等も行ったが大きな効果が出なかったため、引き続き保護者連携が図れるように注力していく。

② 今後の改善方策

- 引き続き校内行事への参加案内を行うと同時に、学生の変化や状況に合わせての連絡を強化していく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・保護者との連携は、「何か問題が発生したときだけ連絡を取る」という受け身の姿勢では不十分であり、入学当初から意識的にコミュニケーションをとっていくことが不可欠である。学生寮では、最終的な契約責任者は保護者であり、長期欠席や外泊が続くなどの有事の際に、迅速かつ的確な連絡が求められる。現実的には、保護者側が電話に出ない、連絡が取りづらいといった事例も見られ、連絡手段の工夫（例:LINE 等の SNS ツールの活用）をしている。（田村委員）

・最近は「学校に入学さえすれば、必要なサービスが自動的に提供される」といった意識をもつ保護者が増えているのではないか。また、家庭内においても、保護者よりも学生本人の意見が強く、保護者が教育や生活面への関与に消極的になっているケースも見られるのではないか。こうした保護者の変化を踏まえると、学校側がより積極的に関係性を構築し、連携を図る仕組みや機会を設けていく必要がある。（丹野委員）

・自分が在学していた時も親は学校で何をやっているのか、学んでいるのか、気になっていたと思う。行事に保護者を呼べる機会はあった方がいいと感じる。（中村委員）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務･財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- 人材が足りない中ではあるが日々の業務のICT化やチャットGPT等の業務効率ツールを活用しながらの運用ができている。情報発信については情報の一方的な共有が多くなってしまう為、改めて受け手が本当に理解できている内容の発信を心がけていく。

② 今後の改善方策

- 上記の内容を踏まえて、一方的な情報共有の方法等の仕組みを見直していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

･休日にチャットやメールを見ない日があると、情報が多く処理しきれなくなってしまうため、休日にもチャットやメールを確認している教員がいるのが現状である。（石川副校長）

･休日にも情報確認しなければならない状況は課題であるが、実際には休日問わず緊急連絡や状況確認の必要もあり、完全な切り離しが難しいケースも多い。休日対応が常態化しないようにする必要があるのではないか。（田村委員）

･田村委員同様に休日対応が常態化しないようにする必要があると感じる。教職員の負担軽減と情報の適正管理を両立する運用方法の模索が必要ではないか。（丹野委員）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成･実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育･実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫･開発などが実施されているか	4
関連分野の企業･関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成･見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技･実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施･評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価･単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識･技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- 2026 年度新カリキュラム編成に伴い達成目標等は定まっているが、具体的なアクションについてはまだ全教職員が理解できているレベルではないため、2025 年度の全体会議や教科会を通じて理解を深めていく。

② 今後の改善方策

- 全教職員に対して新カリキュラムの目的やゴールの理解が促せるような取り組み（会議や研修会等）を進める。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

･本社主導での研修が頻繁にあるが、強制ではなく任意の為時間がある社員が参加する。学校でも日常的に多忙な業務に従事している教職員にとっては、研修参加が難しいのが現状なのではないか。今後、カリキュラム改編に伴う理解浸透を進めるにあたり、全職員が平等に研修機会を得られるよう、参加の在り方や業務調整についての検討が必要ではないか。（田村委員）

・デザイン分野においては、既存の知識やスキルを教えるだけでは実務に直結しにくく、継続的かつ実践的な能力開発が求められる。能力開発を目的とした研修も存在するが、参加率は高いとは言えず、教育内容の深度化には課題がある。また、業務が特定の職員に属人的に紐づいている傾向があり、特定の職員が不在となった際に業務遂行が滞るといったリスクもある。職務の標準化や仕組みづくりも検討していく必要がある。（丹野委員）

・現場においては、最新のトレンドをいかに察知して新郎新婦へ対応していくかが必要になってくるため、学校でトレンドを伝えることは非常に重要だと考える。（中村委員）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

- 目標喪失については様々な取り組み（ブライダル現場研修の機会や、インターンシップ、コース選択時に上級学年の先輩との交流など）を行ったが、高い水準になってしまっている。

② 今後の改善方策

- 学校改革プロジェクトという学生主体で学校全体を良くするプロジェクトを立ち上げた。学生の声を反映する中で、教員や先輩・後輩との交流の場を増やしたい、という意見も挙がった為教員主体ではなく、生徒本位での意見に耳を傾けることで学校に通うことが楽しいと感じるような場を引き続き作っていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・ウェディング業界の就職状況について質問があり、将来を見通す上でウェディング業界の変化が学生の目標形成に影響しているのではないかという意見をいただいた。また、学校の退学が学生寮の退寮と結びつくケースが多い。背景には家庭環境や健康面の問題のほか、学生個人の意思による生活スタイルの変化（同棲など）がある。（田村委員）

・若い人達は幼少期から多様な選択肢の中で育っており、一つのことに執着せず柔軟に方向転換する傾向がある。そのため、「辞める」ことに対する心理的ハードルが従来よりも低く、進路変更や退学に至るケースも比較的気軽に選ばれるようになっているのではないか。（丹野委員）

・自分の周りでも辞めることに対してハードルが低くなっている友人もいた。現場を見て、自分でもできるんだと思える機会があったらいいと思う。（中村委員）

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路･就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校･高等専修学校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- 昨年度と同様、ダイレクトメールやパンフレットにおいても既卒者が学びやすい情報を提供したが、結果として成果が上がったと言えるほどの入学生数は増加していない。

② 今後の改善方策

- 既卒者の学び直しに対する取り組みを、ダイレクトメールや SNS 等を通して認知強化をしているが、結果が出ていないため、引き続き個別アプローチや夕方の相談会等の実施を進めていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

･ウェディング業界そのものが、他業界と比較して社会人からの再チャレンジやキャリアチェンジのニーズが高くないのではないか。業界特性として、専門学校や大学を卒業してから就職する流れが一般的であり、既卒者が中途で業界に就職するケースは少ない印象である。そのため既卒の入学を増やすのは難しい部分もあるのではないか。（田村委員）

･ウェディング業界は離職者が多いという印象が強く、責任感の強さを求められる婚礼業務をやり切った達成感から、一定の節目で業界を離れる人も少なくないのかもしれない。業界の離職傾向から、「再びこの道に戻る」という選択肢をとる既卒者も多くなく、社会人向けの広報･募集施策が成果に結びつきにくいのではないか。（丹野委員）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- 防災・安全面でのマニュアル等は全教職員に浸透を図るべく毎年の年度開始の全教職員会議にてマニュアルの読み合わせを行っている。

② 今後の改善方策

- 避難訓練の定期的な実施と「実際の授業内で災害が起きたら？」を常に教員が考えながら授業を行うことを意識していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・学生寮では、各寮ごとに年に一度の避難訓練が実施されており、一定の防災意識が保たれている。一方で、学校についてはビルのような建物のため、実際の避難訓練を行うには難しさが伴うこともあるが、実践的な訓練は必要ではないか。（田村委員）

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

➢ ブライダル業界の魅力をしっかりと伝えるべく校内のオープンキャンパスだけではなく、実際の結婚式場でのオープンキャンパスを実施することでよりブライダル業界の魅力を伝え、入学してからのミスマッチをなくすよう努力が必要だと考える。

② 今後の改善方策

➢ 上記の課題感にも記載をしているがオープンキャンパスの実施方法の見直しをする。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・オープンキャンパスのキャンパススタッフを見ると明るく、はきはきと対応しており、それを見た高校生が「こんなふうになりたい」と憧れを抱くことに繋がっているのではないか。また、スイーツ校のユニフォームも非常に見栄えが良く、視覚的にも魅力を伝える要素になっている。ブライダル分野においても、職業の華やかさだけでなく、実際に働く姿や雰囲気をリアルに伝える工夫をさらに強化することで、ミスマッチ回避につながるのではないか。（田村委員）

・オープンキャンパスの際に、在学生と参加者とのフリートークの時間は設けているが、単に入学を促すための一方的な説明ではなく、参加者が何を学びたいのか、将来どうなりたいのかを丁寧に聞き取り、理解する姿勢が重要である。在学中にヒアリング力を身に着けるといいと思う。（中村委員）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算･収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況ははホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

➢ 特になし

② 今後の改善方策

➢ 特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・個人情報の取り扱いについては、厳格な管理が求められる。特に、業務用 PC や記録媒体の持ち出しに際しては、紛失・盗難のリスクを常に意識する必要がある。セキュリティだけでなく、日常的な取り扱いの慎重さが重要（田村委員）

・個人情報や機密データを破棄する際には、必ず破棄対象を明確にし、署名をもって正式に処分している（丹野委員）

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- 地域や社会貢献に関しては引き続き実施できている。しかし、昨年度同様に教育訓練の受け入れについては整備はしているものの利用者が少ない現状がある。

② 今後の改善方策

- 教育訓練給付金を利用した社会人の積極的な受け入れが出来るように DM や SNS 等を用いて広く周知をしていく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・商業施設でのドレスショーや、実際の結婚式場と連携した活動など、地域に開かれた取り組みを継続して実施している。学生にとっての実践機会の拡充にもつながっており、引き続き地域との接点を意識した活動をしていく。（石川副校長）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

近年の傾向として、専門学校に入学すれば「すべてをやってもらえる」「就職まで導いてくれる」といった、受け身の学生が多くなっている。大学では自己責任による主体的な行動が求められる一方、専門学校が同様の姿勢を求めた場合、入学希望者が離れる可能性がある点はジレンマとなっている。単に広報に注力するのではなく、教務・就職を含めた学校運営全体のバランスが重要であり、その評価は学生アンケートにも現れている。

ブライダル業界に魅力を感じる学生を支え、送り出していく教育の重要性は変わらない。今後も引き続き広報・募集活動に対する理解と協力をお願いしたい。（石川副校長）